



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
7月6日
発行

第42回 臨時号 「株式市場見通し」

～ 当面の株式市場は下振れに注意 ～

初めに

前回に6月8日付当レポート「株式市場見通し—近づく相場の転換点」では、「株式市場の転換点は近い」と述べました。その後も株価は底堅く推移してはいるものの、徐々に上値は重くなっています。3月の安値からの株価上昇はそろそろ終わりであり、今後は下振れリスクに注意すべきと見ていますが、今回はその理由を説明します。

下振れを予想する3つの理由

下振れリスクに注意すべきと考える理由は3つあります。①各国とも株価は高値圏にあること、②当面追加的な金融緩和の可能性は低いと見ていること、③内外の新型コロナウイルス感染者数の増加、この3つです。以下順に説明します。

利益確定売り

足元主要株価指数はいずれも高値圏にあります。米国のナスダック総合指数に至っては史上最高値です。こうした状況においては、いつ利益確定売りが出て来てもおかしくありません。7月2日に東証マザーズ指数が大幅安しましたが、これも利益確定売りが膨らんだためと解説されています。このように株価が高値圏にあり、利益確定売りが出て来てもおかしくないことが、株価の下振れを予想する第1の理由です。

追加緩和の可能性は低い

今回の株高の主因は、主要中央銀行による大規模な金融緩和です。これにより産み出された余剰資金が流れ込み、株価は大幅高、原油や非鉄などでも同じことが起こっています。買うから上がる、上がるから買う、といった有様です。「どうせ下がっても中央銀行が支えてくれる」との声もあると聞きます。しかしIMFが現在の实体经济と株価の乖離について警告するなど、株価上昇の行き過ぎを懸念する声は既に出ています。これ以上の金融緩和のハードルはかなり高いと見ておくべきでしょう。追加緩和の可能性は低いと見ていることが株価の下振れを予想する2番目の理由です。

コロナウイルスの新規感染者の増加

一方、問題の根源である、新型コロナウイルスの感染状況にも動きがあります。ここ数日東京都の新規感染者数は100人越えが続いています。周辺の関東各県でも感染者は増加しています。海外では、CNNが、米国で7月2日、52000人以上の感染者が確認され、1日あたりの最多記録を2日連続で更新した報じています。しかしこうした状況に株式市場は反応していません。いったんは新型コロナウイルスを退けたこと、ワクチンなどの開発が進んでいることなどから、自分も新型コロナの状況に一喜一憂する必要はないと思っていますが、このままでは感染拡大が株価に悪影響を与える場面もありそうです。これが3番目の理由です。以上から、3日月の安値以来の株価上昇は終了、今後は下振れリスクに注意すべしと考えています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。